

事務事業及び予算の執行実績

(令和4年度分「一部令和3年度分含む」)

静岡県立清水南高等学校中等部

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	17
学校施設の概要	18
在籍生徒調	20
入学志願者及び入学者数調	21
生徒の状況	22
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	23
現金出納調	23
預金調	23
郵券等受払調	23
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	24
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	25
委託料に関する調	26
補助金支出調	26
主要備品調	27
公務中の事故等に関する調	28
前回の監査結果等改善状況調	29
職員調・職員の年齢調	30
健康管理	33

事務事業の概要

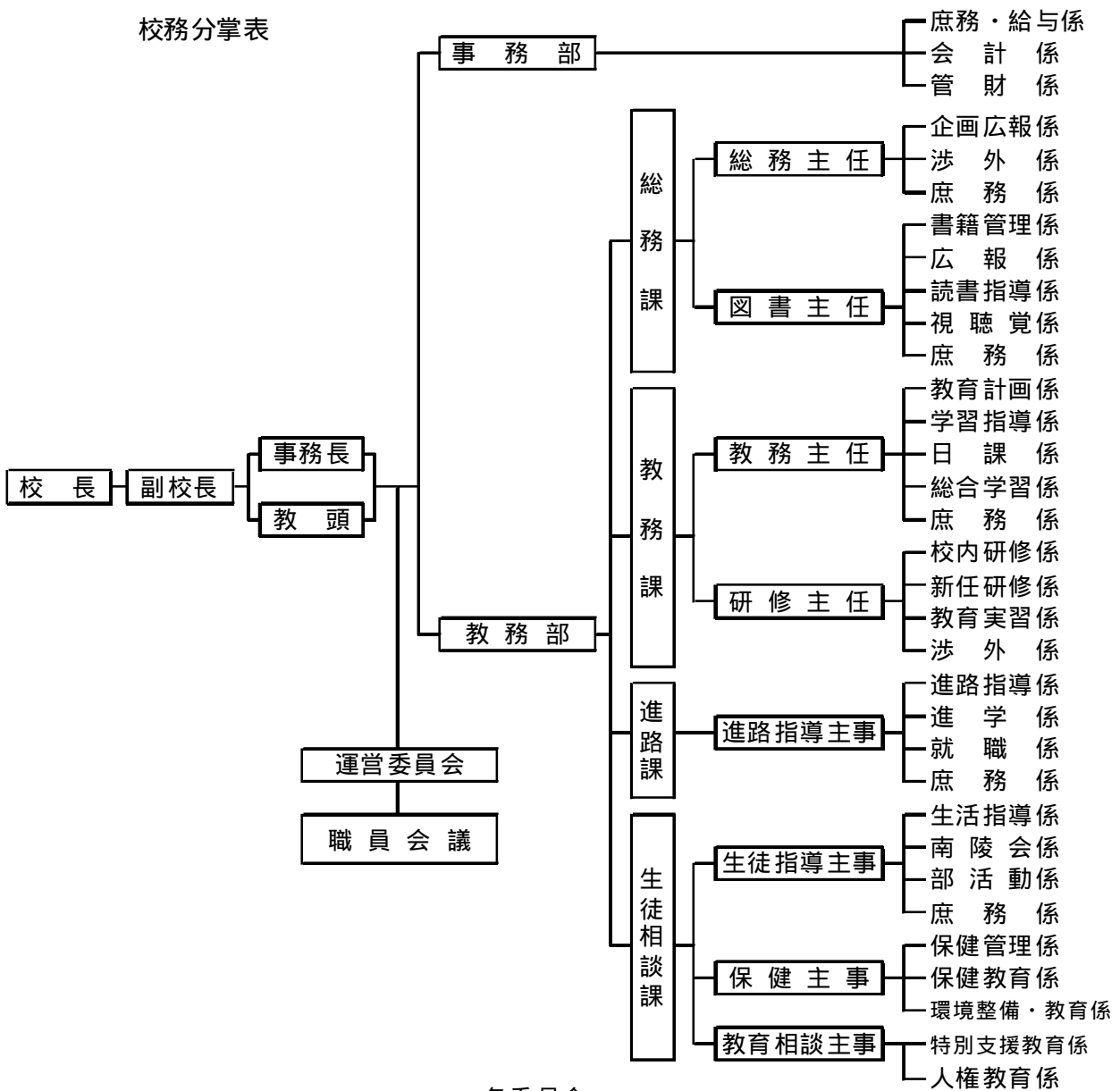
1 概況

(1) 学校の沿革

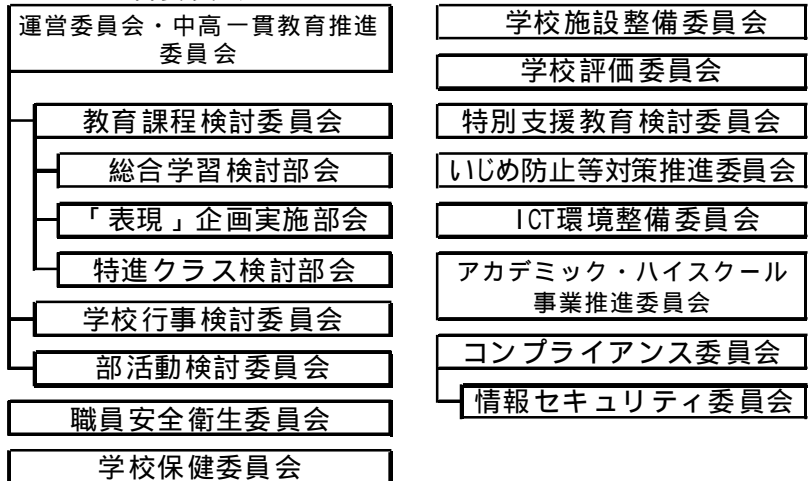
- 平成15年4月1日 静岡県条例第46号静岡県立学校設置条例の一部を改正する条例により静岡県立清水南高等学校に中等部が設置される。
静岡県教育委員会規則第21号により静岡県立中学校学則が制定され、中等部の募集定員が80人となる。
- 平成15年4月8日 静岡県立清水南高等学校中等部開校式及び第1回入学式を行う。
2学級80人の1年生が入学
中高一貫教育開始
- 平成17年4月1日 政令指定都市移行により静岡市清水区折戸三丁目2番1号に住居表示変更
- 平成20年4月7日 静岡県立清水南高等学校中等部第6回入学式を行う。
開校6年目を迎え、1期生が高校3年生となる。
- 平成21年3月2日 静岡県立清水南高等学校卒業式を行う。
1期生が卒業
- 平成23年4月1日 中等部の募集定員が120人となる。
- 平成25年11月5日 創立10周年記念式典挙行
- 令和5年4月1日(予定) 中等部の募集定員が105人となる。

2 組織図

校務分掌表



<各委員会>



3 目指す学校像 令和4年度学校経営計画書

(1) 校訓

「富士の如く端正に、橘の如く香り高く」

(2) 教育目標(目指す学校像)

普通科と芸術科を併せ持つ県立中高一貫校として、6年間の教育活動を通し、高い知性と豊かな感性・表現力を備え、国際社会に貢献できる人材を育成する。

(3) 教育方針(校訓、教育目標を踏まえた教育方針)

ア 知性

確かな学力を身に付けるとともに、主体的に学ぶ態度や考える力を育てる。

イ 感性・表現力

他者とのかかわり合いを通して自己有用感を高めるとともに、豊かな感性を磨き、身体的・言語的表現力を育てる。

ウ 国際社会への貢献

自国文化の理解を深めるとともに、グローバルなもの見方・考え方を身に付け、社会に積極的に関わる行動力を育てる。

4 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和3年度の取組目標への評価及び成果と課題

(評価はA B C Dの4段階、ゴシックは重点項目)

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%	中等部 91.1% 高 校 78.1% 全 体 84.6%	B	高校生は、昨年の75.6%より若干上昇している。定期試験等の準備、振り返りの指導をすることで生徒が授業の成果を感じられるようにする。
	週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	中等部 85.9% 高 校 73.7% 全 体 79.8%	B	高校生は、昨年の68.6%より改善している。高校各学年の学習計画と学習時間のシート、中等部のすらすらドリル等の活用の成果と考える。今後も担任や学年部だけでなく、学校全体で方策を考えて進めていく。
	校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計12回	校内演奏会6回、校外演奏会2回、特別レッスン2回、課外授業3回、計13回。 9月の校内演奏会はコロナ禍のため中止。	A	生徒の学びの機会を確保することができた。来年度もコロナ対策をしっかりと講じ、生徒の演奏機会を確保する。
	美術鑑賞、実技講習会等 実施回数：年間計10回	実技講習会8回、デッサンコンクール3回、美術鑑賞1回(予定)、計12回。	A	コロナ禍ではあったが、予備校の協力などを得られ、講習会などを実施することができた。
	授業公開週間実施回数：年間3回	「ちょっと見」・「ちゃんと見」を合わせて3回実施し、教	B	次年度も継続したい。授業公開週間については、今後持ち方等を工夫し、さ

	外部講師による講演 満足度：80%	職員の満足度も高かった。 外部講師による講演を2 回実施。満足度72%		らに充実した研修になるようにしたい。外部講師による講演は、教職員の求めるニーズをしっかりと把握し、講演内容を吟味していきたい。
	アクティブ・ラーニングの実施に取り組む 教員の割合：80%	アクティブラーニング型の授業をしていると答えた教員 中等部 88% 高 校 63% 全 体 71%	B	目標に届かず次年度の課題となる。授業公開週間などの研修を通して、生徒の主体的な学習を大切にしたい。また、授業改善に関する意識の向上を今後の課題とする。
	測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組んだ教員：80%	授業リサーチや外部模試などの結果を分析し、生徒の現状を把握するとともに、授業改善に取り組んだ。 各教科の評価 A：4教科 B：5教科	B	模試や授業リサーチの結果分析をもとに、授業の内容や小テスト・定期試験等の内容を工夫した。教科レベルでの分析・改善はできているが、学校全体で共有する仕組みが必要である。
	「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	中等部 84.7% 中等部「表現」の授業についての評価	A	目標は達成されているが、先を見通して、状況に応じて行動することができればなお、「表現」の価値が見いだせると考えている。次年度は根本的にシラバスについて考え直し、指導計画の見直しを実施する。
	講演、講義等の回数： 年間計 10 回	中1 職業講話2回・ベネッセ1回・進路課長2回 中2 社会人交流2回・ベネッセ1回・進路課長1回 中3 職業講話6回・ベネッセ2回・進路課長2回 高1 大学見学1回・ベネッセ2回・進路課長1回 高2 出張講義1回・ベネッセ2回・進路課長2回 高3 河合塾2回・各種入試分析会6回 上記以外各学年進路集会等を4回以上実施	B	(中等部) キャリア教育に関わる講義や講演等を外部講師や静大のキャリアサポートなどを活用して計画的に行うことができた。 (高校) 大学見学や対面の出張講義ができたことで、進路実現へのモチベーションが向上した。 (中等部課題) 「やりがい」から「仕事」「進路」へとつないでいく際の個々への面接指導等が必要であることはわかるがその時間をなかなか確保できていない。 (高校課題) 「総合的な探究の時間」に変わったことで、それまで比較的学年主導で実施していた進路指導を適切なタイミングで実施できなくなって困っている声が多数上がっている。
イ	こころざしを育む 進路指導の充実を図る。			

		「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	中等部 83.1% 高校1年 80.6% 高校2・3年 92.7%	A	講演会や各種分析会、個人面談、志望校研究等を通して、考える機会は増えている。しかし、理想の進路を実現していくには学力が必要であるが、忍耐強く学力を養成していく力が不足している。
		[中等部]学力到達度調査 評価A以上：30%以上(3年) [高校]模試全国偏差値：1年間で+3(1・2年)2年次の成績維持(3年)	[中等部]学力到達度 A3以上 21% B1以上 33% [高校] 高1 (7月)50.5 (11月)51.4 +0.9 (1月)53.3 +2.8 高2 (7月)54.9 (11・1月)53.8 -1.1 3教科 5教科 52.0 高3 (高2 2月)マ 52.5 (高3 6月)マ 52.0 (9月)マ 49.1 (11月)マ 50.2 -2.3	C	B2・B3の生徒が35%いることが目標を達成できていない原因である。学年の3割以上がC1～D3の層にいる現実とどう向き合っていくかが今後の課題である。学習意欲の低い生徒等で構成されている。別々の指導が必要である。 高1は1月模試の結果で目標をほぼ達成できたが、高2は、目標を達成できていないため、来年度の目標値を変更するか検討を要する。高2では5教科になった11月で7月の結果を維持したい。また、高2の2月マークでできるだけ5教科偏差値を55近くにもってこれなければ、3年次11月で53を担保することは難しい。
ウ		「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%	中等部 86.3% 高校 70.7% 全体 78.5%	C	コロナ禍で、挨拶活動が十分できなかったため、来年度は充実させたい。中等部は生徒会主催のプロジェクトなどもあり、意識に訴えかけることができた。
		教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間10回	定期的に行うことができ、年間10回を達成した。	B	交通委員を中心に街頭指導は定期的実施できている。 今年度は苦情電話の件数が激減した。教員が街頭指導に参加することで意識を高めていきたい。
	効果的な生徒指導・保健指導を推進することで、規範意	「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：70%	中等部 77.9% 高校1年 50.0% 高校2・3年 66.0%	C	中等部では目標を達成しているが、高校生では割合が低く、特に高校1年生の低さが課題である。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%	中等部 63.3% 高校1年 46.8% 高校2・3年 66.8%	C	中高ともに自己肯定感が低くなっているのが課題である。

<p>識と自己肯定感を高め、心身ともに健康な生徒を育成する。</p>	<p>「相談室だより」発行：年間5回 生徒向け掲示板更新：毎月1回</p>	<p>相談室だよりは12月現在で4回発行。生徒向け掲示板更新も月1回以上の更新を続けている。</p>	A	<p>目標は達成できているが、これらの業務が予防的措置の目標を達しているかどうかの検証は必要である。</p>
	<p>「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%</p>	<p>中等部 77.9% 高 校 68.7%</p>	C	<p>今年度はコロナ禍もあり、学校における相談の受け入れ体制以上に、相談したい生徒や心の不安定な生徒が増加した。 スクールカウンセラーの予約は常に満員で、臨時のスクールカウンセラーが常に必要な状態になっている。また、教育相談室や担任、副担が対応している生徒の数が多く、本来声をかけべき生徒に声をかけきれていない現状もある。現状の体制ではマンパワー不足は否めず、カウンセラー複数体制を恒常的に行うなど予算的な措置も必要である。</p>
	<p>「保健だより」の発行：年間12回</p>	<p>毎月1回の「保健だより」を発行済み。年間で12回発行した。</p>	A	<p>新型コロナウイルス感染症に関する話題のほか、思春期やジェンダー等様々な内容を取り上げて発行することができた。今後も生徒の実情に即した内容を精選する。</p>
<p>エ</p> <p>学校行事、部活動等の充実を図り、社会性と自立心を育成する。</p>	<p>部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上</p>	<p>中等部 85.9% 高 校 78.4% 全 体 82.2% コロナによる活動の制限も影響していると分析している。</p>	B	<p>中等部、高校ともに一生懸命取り組む生徒の割合が減少しており、高校は目標を下回った。家庭学習の習慣がついていない生徒も多く、今後「部活動全員加入」を継続するか、あるいは成果目標自体についても検討する時期に差し掛かっている。</p>
	<p>部活動ガイドラインの遵守および各部活での毎月の活動計画作成と、生徒・保護者への周知</p>	<p>各部活動で活動計画表を作成していたが、ホームページへの掲載については徹底することができなかった。 保護者アンケート調査結果 64.0%</p>	B	<p>年度当初に示したものを徹底することができなかった。月ごとのとりまとめ、掲載の仕方を明確にする。</p>
	<p>海外研修で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上 海外交流行事実施：1回以上</p>	<p>「充実していた」「まあ充実していた」と答えた生徒 96.0% R3年度は北陸方面に</p>	A	<p>泊の減、2回の行き先変更など、実施自体も危ぶまれたが、限られた時間、条件の中で結果的に満足度の高い研修の計画・実施ができた。北陸は気候、産業、文化等学ぶことが多く国内研修</p>

		目的地を変更して実施		先としても適していた。状っ強が改善され次第、海外へ戻して行けたら良い。	
	奉仕活動・社会貢献活動経験生徒:60%以上	コロナの関係で活動がままならず、3学期に各部活動で奉仕活動を実施することで目標を達成できた。浜清掃など学校全体で行う行事が出来なかったのも影響している。	B	部活動単位でボランティアを実施し、実際には60%以上の生徒がボランティア活動をしているが、それがボランティア活動であるという意識が薄い。アンケートの結果は24.3%に止まるので、引き上げる工夫が必要である。	
	「学校生活が充実している」と答える生徒の割合:70%	中等部 86.3% 高 校 69.5% 全 体 77.9%	B	コロナ禍で、生徒会活動や部活動が縮小・中止されることが多かったため、生徒が主体的に活動できる場面が少なくなってしまった。 充実していると答える生徒の割合が年々減少していることから、生徒の変化に対応するよう学校全体で検討する必要がある。	
	全校読書会の生徒充実度:70% 図書館貸出数:4,000冊以上	全校読書会の生徒充実度 中等部 85% 高 校 77% 図書館貸出数:297.3冊/月(4月~12月) 年間約3,600冊	B	中、高それぞれが学年を越えて意見を交換し合うことで、広い視野と深い考察を得ることができた。運営の仕方については検討が必要である。 貸出冊数は、図書委員会でいろいろ企画を立てたが、目標には達しなかった。	
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。	土曜オープンスクール参加者数:年間1,600人 ホームページアクセス:年間500,000件	参加者数(3回):1,888人 (一般819人、保護者1,069人) アクセス:年間1,151,295件	A	土曜オープンスクールは、コロナ禍でも3回開催することができ、来場者数もHPのアクセス件数と共に顕著な数字を出せた。 チラシのデザイン等を大幅に変更、CM動画も作成するなど次年度につながる十分な広報活動ができた。
		PTAだより・学年だよりの発行:合わせて年間5回以上 学年保護者会の出席率:50%以上	毎月発行する学年も多く、すべての学年で学年だよりを発行した。 学年保護者会出席率 中等部 63% 高 校 57% 全 体 60%	A	様々な行事での生徒の様子、進路など時期を捉えて保護者・生徒に効果的な情報発信ができた。 コロナ禍の開催ではあったが、保護者のニーズに合った内容にすることで出席率達成につながった。
		実践的防災訓練実施:年間3回 地域防災訓練参加率: 中等部 75%、高 校	防災訓練年間2回実施 地域防災訓練参加率: 中等部 13.0% 高 校 5.2%	C	コロナ禍ではあったが、年間2回の防災訓練を実施した。 地域防災訓練については、中止となった地域もあるため、参加率を上げることが

		45%			できなかった。今後も参加率を目標にすることが妥当か検討する。自己都合で参加していない生徒が中高合わせて30%弱いることが課題。目標設定の変更についても検討する。
		講話や研修等の取組：月1回以上	職員会議や朝の打ち合わせの時間を活用してコンプライアンスに関する短時間研修や注意喚起を行った。	A	県からの文書を活用して確実に注意喚起等を行うことはできたが、校内の課題に対しての取り組みを工夫したい。
力	環境美化、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	平常時、1・2学期の始業式、終業式の全校清掃はすべて計画どおりに実施することができた。	A	感染症拡大防止の徹底を目標に掲げて、美化委員を中心に、清掃活動にしっかりと取り組むことができた。
		予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回	6月の職員会議にて実施	B	適正な会計処理が行われた。学校徴収金の取扱いなどの研修を実施し、職員の意識を高めることができた。
		夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月45時間以上の教職員数を前年度より減少させる	夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月45時間以上：31.8%	C	夏季休暇は100%取得したが、時間外勤務一ヶ月45時間以上の教職員は昨年(25.3%)を大きく上回ってしまった。多忙化の要因となる業務の削減を目指して改善に取り組む。
		職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了	職員会議は、各発言者の協力等により、概ね予定時間内に終了できた。	B	コロナ禍で、行事の延期や中止、内容の縮小について検討する必要が生じ、結果として会議が多くなり、資料も増えてしまった。来年は今年以上に掲示板を活用し、ペーパーレス化を進めていく。

(2)令和4年度の取組目標・達成方法・達成目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	新学習指導要領に基づいた授業改善を進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	ICT活用を含む教員研修や授業評価等を用い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%
		学年部・教科間が連携しながら個別最適な学びに対応した授業及び課題を工夫し、家庭学習の習慣を確立させる。	授業公開週間実施回数：年間3回 外部講師による講演満足度：80%
		6年間を見通した学力測定ツールを活用し、6学年の学習指導を検証する。	週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%
			測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組んだ教員：80%
イ	中高6年間を見通したキャリア教育の充実を図る。	6年間を見通したキャリア教育に基づき、自らの進路希望を実現する。	「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%
		外部講師による講演、講義等を開催し、自分の将来を見通す機会とする。	講演、講義等の回数：年間合計10回
		大学、研究機関及び企業等を訪問し、外部人材を活用したキャリア教育を推進する。	大学、企業等の訪問回数：年間合計10回
ウ	自己有用感を高めるとともに、教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。	特別活動等を通じて、生徒の自己有用感を高める教育活動を推進する。	「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：80%
		学校生活のルールを守り、正しい判断・行動をとれるようにする。	「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%
		悩みを抱えた生徒、保護者が相談しやすいように、相談室の運営を充実させる。	教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間10回
		健康維持・増進について生徒の意識を高める指導を行う。	長期欠席生徒(年間欠席30日以上)及び転退学者：0人 「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%
エ	学校行事、部活動等の充実を図るとともに、アカデミック・ハイスクールの取組	部活動や読書活動を通して、心身の成長を図り、豊かな感性や徳のある人間性を育む。	「保健だより」の発行：年間12回
		魅力ある学校行事を運営し、学校生活の満足度を高める。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上 全校読書会の生徒充実度：70% 図書館貸出数：4000冊以上
			「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%

	を推進し、豊かな感性や表現力を育てる。		研修旅行で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上
		「表現」の授業内容を工夫し、生徒の能力向上を図る。	「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%
		国内外の芸術等に触れる機会を通じて、芸術科生徒の専門的な知識、技能の一層の向上を図る。	芸術鑑賞、校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計10回
			美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計10回
オ	郷土文化への理解を深めるとともに、地域社会や産学官の連携を推進する。	地域、企業、大学、研究機関等との連携し、積極的に社会に関わる意識を醸成する。	奉仕活動・社会貢献活動経験生徒：60%以上 海外交流行事実施：1回以上
		地域と連携した防災教育を推進する。	実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部75%、高校45%
		積極的な広報活動を通じ、開かれた学校づくりを目指す。	土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件
		校舎内外の美化を推進する。	平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底
カ	安心・安全な教育環境の整備、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	計画的な予算執行と事務の効率化に努める。	予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回
		教職員のコンプライアンスを徹底する。	講話や研修等の取組：月1回以上
		時間外勤務削減等の業務環境の改善を進める。	夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均45時間以上の教職員数を前年度より減少させる
職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了			

5 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和3年度	<p>1 オンリーワン・ハイスクール事業 テーマ「SPACと連携した演劇科設置に向けたカリキュラム研究」</p> <p>2 SPACとの連携による中等部 「表現」指導実践</p> <p>3 職員の授業改善、生徒の学力向上への取組</p> <p>4 芸術へのさらなる理解を深める活動</p> <p>5 地元企業の活動への協力</p>	<p>1 「アカデミック・ハイスクール」の研究指定を受け、3年間の計画を立てて研究を進めた。初年度の令和3年度は先進校視察を行い、教育活動に演劇を取り入れている学校や舞台芸術科・演劇科設置校、専門教育を行っている大学を見学した。</p> <p>2 中等部の授業「表現」においてSPACから計画的に指導を受けた。11月にはSPACと連携協定書を締結し、演劇専門教育導入に向けて協力体制を築いた。</p> <p>3 前年度までの学力向上プログラムを継続し、資格・検定試験に積極的に参加するように働きかけ、またICTを活用した授業改善を推進した。</p> <p>4 中等部1、3年生がSPACの演劇を鑑賞し、芸術科2年生が新国立劇場でオペラを鑑賞した。</p> <p>5 地元企業と協働し、芸術科美術デザイン専攻の2年生が駿河湾フェリーと手ぬぐいのデザイン、3年生がはごろも教育財団と教育奨励賞募集のポスター制作を行った。</p>
令和4年度	<p>1 オンリーワン・ハイスクール事業 テーマ「SPACと連携した演劇科設置に向けたカリキュラム研究」</p> <p>2 職員の授業改善、生徒の学力向上への取組</p> <p>3 芸術へのさらなる理解を深める活動</p> <p>4 地元企業の活動への協力</p>	<p>1 「アカデミック・ハイスクール」の研究指定を受け、3年間の計画を立てて研究を進めた。2年目である令和4年度は高校普通科、芸術科における「総合的な探究の時間」(探究と表現)においてSPACと連携し、演劇的要素を取り入れた授業実践を試みた。</p> <p>2 前年度までの学力向上プログラムを継続し、資格・検定試験に積極的に参加するように働きかけ、またICTを活用した授業改善を推進した。</p> <p>4 高校1年生は劇団四季のミュージカル「リトルマーメイド」と高1、2年生はSPACの「パールギュント」を鑑賞した。芸術科1年生が新国立劇場でオペラ「ホフマン物語」、2年生はオペラ「ファルスタッフ」を鑑賞した。</p> <p>5 地元企業「駿河湾フェリー」と協働し、芸術科音楽専攻2年生が船上コンサート、美術デザイン専攻2年生がPR動画の制作を行った。</p>

6 教職員について

(1) 令和4年度異動状況

(単位：人)

区分	本 務 職 員								臨時・会計年度任用職員					合 計	
	教 育 職 員					行 政 職 員			本 務 計	教 諭	養 護 教 諭	非 常 勤 講 師	非 常 勤 嘱 託 員		臨 時 ・ 会 計 年 度 任 用 計
	校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	小 計	主 査	主 任	小 計							
転 出 者			4		4				4						4
退 職 者										1		1	1	3	3
再任用(退職)															
転 入 者			4		4				4						4
新 任 者													1	1	1
再任用(新任)															
差引増減										1		1		2	2

(2) 現員数 (令和5年4月1日現在)

(単位：人)

区分	本 務 職 員								臨時・会計年度任用職員					合 計	
	教 育 職 員					行 政 職 員			本 務 計	教 諭	養 護 教 諭	非 常 勤 講 師	非 常 勤 嘱 託 員		臨 時 ・ 会 計 年 度 任 用 計
	校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任							
男	(1)	1	11		12				12			2		2	14
女			5	1	6	(1)	(2)	(1)	7		1	3	1	5	12
合計	(1)	1	16	1	18	(1)	(2)	(1)	19		1	5	1	7	26

() は中等部の兼務職員で外数

(3) 健康管理について

ア 職員の健康管理については、日頃から声掛けを行いストレスカウンセリングを紹介した。また、ストレスチェックを全職員に行った。生活習慣病検診、人間ドック等を積極的に受け、生活習慣病等の早期発見に努めながら、学校医や養護教諭の指導・助言をもとに、管理職からも積極的に声掛けを行った。職員研修では、職場の健康増進プログラムとして講師を招き自力整体を行った。

イ 職員安全衛生委員会が中心となり、安全かつ健康的な職場環境の向上に努めるとともに、職員を対象に校内の環境についてのアンケートを実施し、職場環境の向上に努めた。

< 令和4年度の職員安全衛生委員会の主な内容 >

- 1 年間計画について
- 2 職員トイレ清掃について
- 3 疲労蓄積度チェック・熱中症について
- 4 環境衛生検査結果等の検討・職場改善調査結果の検討
- 5 健康づくり研修実施(「ゼロトレ」健康法)
- 6 ストレスチェックの実施、結果について
- 7 休校明けの生徒の心のケア
- 8 環境衛生検査結果の報告
- 9 安全点検について
- 10 健康診断再検査の呼びかけ
- 11 救急法講習会について
- 12 危険予測グループワーク
- 13 今年度のまとめ

(4) 教職員の研修について

ア 研修の目的

「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」を主テーマとし、各年度に重点項目を設定しながら令和3年度から4年間計画で研究を進めることとした。令和3・4年度は「主体的に学習に取り組む態度を評価するための工夫」に重点をおき、学習者(生徒)の主体性をどのように評価するかについて研修を行った。

イ 研修内容及び成果

(ア) 重点的取組事項・指導計画の作成及び実践

令和3年度に4年間の実施計画を作成し、令和4年度も引き続き計画に基づいて各組織、個人が具体的に取り組んだ。

(イ) 訪問指導(定期訪問)

令和3年度は新型コロナ感染拡大防止のため、県総合教育センターの定期訪問が縮小開催となり、夏季校内研修での資料に対して指導・助言を受けた。

令和4年度は9月2日(金)計画通りに実施した。校内研修会では「授業改善のための学習評価」をテーマとして教科別の協議等を行い、県総合教育センター指導主事から指導・助言を受けた。

(ウ) 校内研修会

令和3年度

5月19日 全体研修

- ・ICT研修「教育の情報化」講師：教育政策課 守屋貴広指導主事
- ・生徒理解のための情報共有(本校職員のみ)

8月6日 夏季職員研修

(全体)

- ・(講話)「支援を要する生徒の理解と支援～特別支援教育の最新事情から～」講師：常葉大学 赤塚 めぐみ 氏
- ・(講話)「主体的に学習に取り組む態度」の評価について
講師：文部科学省国立教育政策研究所教育課程調査官・

(教科別)「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体
(指導・講評)県教育委員会高校教育課指導第1班長 岡野 哲也氏

9月2日 定期訪問
オンラインでの縮小開催。研究授業は行わず、夏季研修で使用した授業実践資料について指導・助言を受けた。

令和4年度

4月21日 全体 分掌
・不祥事根絶に向けて

5月10日 全体研修
・防災計画・危機管理マニュアル読み合わせ
・生徒理解のための情報共有

8月5日 夏季職員研修
・(グループ別)ロイロノート体験
・(全体)観点別評価について
・(教科別)「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体

9月2日 定期訪問 <訪問教科 国語(中高)・地歴公民>
・(訪問教科)研究授業および教科別協議
・(全体研修)「授業改善のための学習評価」

10月6日 全体研修
・スクール・ポリシー策定に向けて

(エ) 授業改善の取組

夏季の全教員による職員研修会と年3回の相互授業見学(「ちょっと見週間」「ちゃんと見週間」)を計画・実施した。「アカデミック・ハイスクール事業」の目的の一つでもある学力向上を目指し、ICTを積極的に活用して授業づくりを行った。

ウ 課題

令和3年度・4年度の重点項目を「主体的に学習に取り組む態度を評価するための工夫」とし、評価の在り方について中高で議論した。令和3年度の夏季研修では中等部の職員が実践した資料をもとに高校の職員と議論した。学びに向かう力等を見取るための方法について様々な考え方があり、具体的な事例をもとに議論を進めたことは効果があった。高校では令和4年度から新たな観点別評価が始まり、令和3年度に研修で学んだことを土台として評価を行った。実際に評価を出してみても授業内での観点別評価をどのように進めるかを考えることになり、授業改善も進んでいる。今後はさらにICT活用を含めて研修の機会を設けて授業改善に取り組む。

7 防災対策について

沿岸部に立地する学校として、東日本大震災を教訓に、大規模地震 津波発災時の人的被害ゼロを目標とし、年3回の屋上避難訓練等(うち1回は抜き打ち)を計画・実施している。

【令和3年度、令和4年度の訓練等記録】

年度	回	実施日	内 容
3	第1回	4月14日(水)	避難経路の確認と基本的な避難のルールの学習を行った。
	第2回	3学期	非通知訓練を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮して中止した。
	学習会	夏季休業中の課題	ワークシートを使用して、避難時や避難生活時のさまざまな状況に対する判断のトレーニングを行った。また、家庭の備蓄品調べを通して、家庭で防災について考えたり、話し合ったりする機会を持った。
	防災だよりの発行	2～3ヶ月に1回発行	防災委員会の生徒が作成した。地震や津波の知識に加えて、時季に合わせた防災情報を発信した。
	防災備蓄品の整理	通年	日常の備えの重要性を考え、防災備蓄品の確認と整理を行った。
4	第1回	4月13日(水)	屋上へ避難し、避難経路の確認と基本的な避難のルールを学習した。
	第2回	8月30日(火) 防災講座	中部電力パワーグリッド(株)から講師を招き、災害時の復旧作業の様子や対応と災害への備えについて講話をしてもらった。
	第3回	2月14日(火)	非通知訓練(地震)を実施した。
	防災だよりの発行	年2回発行	防災委員会の生徒が作成した。地震や津波の知識に加えて、時季に合わせた防災情報を発信した。
	防災備蓄品の整理	通年	日常の備えの重要性を考え、防災備蓄品の確認と整理を行った。

令和3年度の防災訓練は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校の影響や密集を避ける等の観点から第1回(4月)のみ実施した。

8 学校開放について

本校では運動場、体育館などの施設を学校施設開放委員会に申請のあった団体に開放している。

定期的にご利用している団体は地域及び本校OBのスポーツ愛好者などである。なお、利用者からは、電気料を徴収している。

		令和4年度		備 考
施設名	利用種目	利用日数(日)	利用者数(人)	
体育館	バレーボール	41	618	電気料徴収金額 22,285円
	バスケットボール	10	127	
運動場	ラグビー	82	1,804	
計		133	2,549	

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条、第5条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第45条、第46条、 第47条、第48条、第49条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立中学校学則 中学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 産業教育振興法（第18条） 産業教育振興法施行令 いじめ防止対策推進法
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 義務教育国庫負担法（第2条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 社会教育法（第43条、第45条、第47条） 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料徴収条例 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条）

学校施設等の概要

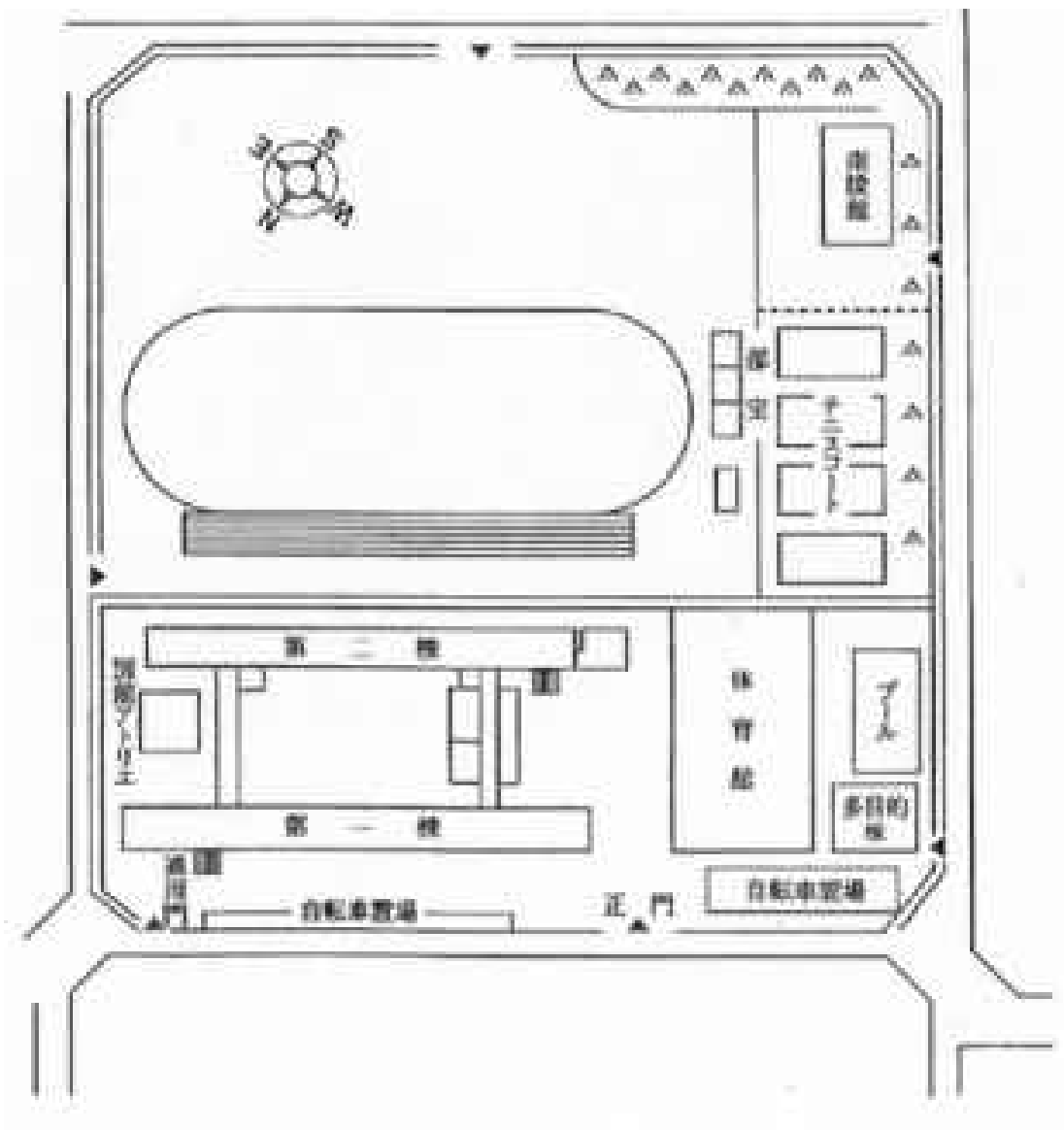
1 面積及び所有区分

(令和5年2月28日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	39,601.53	39,601.53					
内 訳	校舎敷地	13,506.78	13,506.78				
	運動場敷地	26,094.75	26,094.75				
	その他の敷地						
実 習 地							
内 訳	田						
	畑						
	茶 園						
	果 樹 園						
演 習 林							
校 舎	建 2,899.06	2,899.06					
	延 7,547.83	7,547.83					
体 育 館	建 1,940.16	1,940.16					
	延 2,510.37	2,510.37					
武 道 場							
その他の建物	建 1,674.72	1,636.35			38.37		
	延 1,834.66	1,796.29			38.37		
寄 宿 舎							
生 活 館	建 491.28				491.28		
	延 1,059.39				1,059.39		
プ - ル	1	1					25m 7コース
職 員 住 宅							

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	39,601.53m ²	7,547.83m ²	26,094.75m ²
県平均	45,599.25m ²	19,556.09m ²	22,470.91m ²

在 籍 生 徒 調

(令 和 5 年 2 月 28 日 現 在)

学年	区 分		定員	男子	女子	計	
1 年	入 学 者		120	31	77	108	
	3	増 加					
		減 少					
	現 在				31	77	108
2 年	入 学 者			120	36	73	109
	2	増 加					
		減 少					
	2 年時当初				36	73	109
	3	増 加					
		減 少					
現 在				36	73	109	
3 年	入 学 者		120	38	82	120	
	元	増 加					
		減 少					
	2 年時当初				38	82	120
	2	増 加				1	
		減 少					
	3 年時当初				38	83	121
	3	増 加					
		減 少				1	
現 在				38	82	120	
合 計			360	105	232	337	

入学志願者及び入学者数調

区 分		3 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
学 科 別						
生徒定員 (A)		120	120	120	120	105
募集者数 (B)		120	120	120	120	105
志願者数	男	31	54	38	31	54
	女	76	107	74	78	70
	計(C)	107	161	112	109	124
受検者数	男	31	54	38	31	54
	女	76	107	74	78	70
	計(D)	107	161	112	109	124
合格者数	男	31	38	37	31	44
	女	76	82	73	77	61
	計(E)	107	120	110	108	105
志願倍率 (C)/(B)		0.89	1.34	0.93	0.91	1.18
受検倍率 (D)/(B)		0.89	1.34	0.93	0.91	1.18
入学者数	男	31	38	36	31	44
	女	75	82	73	77	61
	計(F)	106	120	109	108	105
充足率 (F)/(A)		0.88	1.00	0.91	0.90	1.00

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和5年2月28日現在) (単位:人)

市町名	旧清水市	旧静岡市	富士市	焼津市	藤枝市	富士宮市	その他	合計
生徒数	209	62	25	13	7	5	16	337
構成比%	62	18.4	7.4	3.9	2	1.5	4.8	100

(2) 通学方法 (令和5年2月28日現在) (単位:人)

区分	自転車	J R	バス	電車	徒歩他	合計
生徒数	157	89	65	13	13	337
構成比%	46.6	26.4	19.2	3.9	3.9	100

2 部(クラブ)の加入状況

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		9	6		15
男子	1年	25	6	0	31
	2年	23	13	0	36
	3年	24	14	0	38
	計(A)	72	33	0	105
	構成比	68.6	31.4	0	100%
女子	1年	41	36	0	77
	2年	34	39	0	73
	3年	27	55	0	82
	計(B)	102	130	0	232
	構成比	44	56	0	100%
合計	(A+B)	174	163	0	337
	構成比	51.6	48.4	0	100%

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和3年度	令和5年2月28日現在
	件 数	件 数
入学検定料	109	124

現 金 出 納 調

令和3年度

該当なし

令和4年度

該当なし

(令和5年2月28日現在)

預 金 調

(令和5年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
清水銀行 三保支店	無利息型 普通預金	2125921	静岡県立清水南高等学校中等部 資金前渡者 小野田 秀生	0	給 与
清水銀行 三保支店	無利息型 普通預金	2125930	(自振口)静岡県立清水南高等学校中等部 資金前渡者 小野田 秀生	0	社 会 保 険 料
残 高 合 計				0	

郵券等受払調

(令和5年2月28日現在)
(単位:枚、円)

区 分	種 類	令和3年度						令和4年度						摘 要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額
郵 券	50円切手	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	0	0	0	0	文 書 発 送 用
	84円切手	0	0	1	84	1	84	0	0	0	0	0	0	0	0	
	320円切手	0	0	1	320	1	320	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レターパック 370円	0	0	1	370	1	370	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		0	0	824	824	824	824	0	0	0	0	0	0	0	0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
					令和2年度	うち、2年度からの繰越額分
(12) 委託料						
計					0	0
(14) 工事 請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費					0	0
計					0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金					0	0
計					0	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						
計					0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、3年度からの繰越額分
(12) 委託料						
計					0	0
(14) 工事 請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費					0	0
計					0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金					0	0
計					0	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						
計					0	0

委託料に関する調

令和3年度 該当なし

委託料に関する調

令和4年度 該当なし

補助金支出調

令和3年度 該当なし

補助金支出調

令和4年度 該当なし

主 要 備 品 調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利 用 状 況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-5A	週5日(年間197日) 音楽科授業用	15.11	円 1,169,700
2	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-3A	週3日(年間110日) 音楽科授業用	15.11	1,041,600
3	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-3A	週3日(年間110日) 音楽科授業用	15.11	1,041,600
4	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-3A	週3日(年間110日) 音楽科授業用	15.11	1,041,600
5	02-02	放送装置	イベントアンプ WA-420	週3日(年間112日) 表現科授業用	15.3	453,600
6	06-09	木工用機械	丸のこ昇降盤(開放型)	週1日(年間39日) 技術科授業、木工実習用	15.3	425,250
7	01-13	その他の厨房器具	製氷機	夏季は毎日、その他は 週2~3日(年間220 日)病気怪我の治療用	17.8	344,400
8	03-03	プリンター	プリンター 5000WIDE	毎日(年間220日) 授業用掲示物作成	21.6	322,800
9	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵庫(牛乳保冷庫) MR-75	毎日(年間143日) 給食牛乳用	15.1	268,800
10	04-01	滅菌消毒機器	滅菌消毒機器	月2回(年間40日) 保健衛生用	23.3	248,850
11	01-07	裁断機	裁断機	毎日(年間220日) 事務処理用	23.12	236,250

公務中の事故等に関する調

1 現金、財産及び占有動産の亡失・損傷事故
なし

2 公務災害（通勤災害を含む。）
なし

3 公務中における交通事故

(1) 発生状況

区 分	件 数	事故の内訳		
		加害事故 (過失割合 50%超)	被害事故 (過失割合 50%以下)	そ の 他 (失割合が不明 なもの等)
元年度	0	0	0	0
2年度	0	0	0	0
3年度	0	0	0	0
4年度	0	0	0	0

(2) 監査対象期間中の事故
なし

4 その他
なし

前回の監査結果等改善状況調

1 定期監査

前回監査 令和4年7月21日

前回監査対象期間 令和3年3月1日～令和4年2月28日

区 分	改 善 状 況
1 指 摘 該当なし	
2 注 意 該当なし	
3 意 見 該当なし	
4 指 導 該当なし	

職 員 調

(令和 5 年 4 月 1 日 現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務 年数		摘 要
					年	月	
	校長	小野田 秀生					
1	教頭	猪俣 孝幸					
	事務長	石川 朋子	事務統括				
2	教諭	油井 幸美	国語				
3	教諭	石橋 芳貴	国語				
4	教諭	武井 正明	社会				
5	教諭	漆畑 元基	社会				
6	教諭	久住 俊介	数学				
7	教諭	小野寺 主寛	数学				
8	教諭	和田 勇樹	数学				
9	教諭	遠藤 大隆	数学				
10	教諭	野原 美由紀	理科				
11	教諭	寺沢 得幸	理科				
12	教諭	望月 翔平	保健体育				
13	教諭	土肥 正通	美術				
14	教諭	藤浪 智久	英語				
15	教諭	堀 志緒美	英語				
16	教諭	萩原 彩子	英語				
17	教諭	青嶋 悠	英語				
	教諭	杉木 充	国語				
	教諭	植平 美奈子	国語				
	教諭	石田 智子	国語				
	教諭	原川 浩幸	数学				

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務 年数		摘 要
					年	月	
	教諭	深澤 吉紀	数学				
	教諭	小田 純	数 学				
	教諭	杉本 純一	数学				
	教諭	松本 晶則	保健体育				
	教諭	松田 朋子	保健体育				
	教諭	梅田 静子	保健体育				
	教諭	大石 なつき	保健体育				
	教諭	水谷 陽介	英語				
	教諭	村上 勇	英語				
	教諭	伴野 千鶴	英語				
	教諭	遠藤 直之	音楽				
	教諭	小柳 久仁子	音楽				
18	養護教諭	北澤 美和子					
19	主査	柳澤 実穂	庶務・給 与・会計				
	主査	森川 喜代美	会計・庶務				
	主査	手塚 麻規子	会計・管財				
	主任	長田 実穂	会計・庶務				
職員40人（本務19人・兼務21人）							平均は本務職員のみ

臨時職員・会計年度任用職員

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務 年数		摘 要
					年	月	
1	養護教諭	木村 早紀	養護教諭				
2	非常勤講師	渡邊 恵美子	家庭				
3	非常勤講師	渡邊 芳宏	技術				
4	非常勤講師	中川 真美子	英語				
5	非常勤講師	深澤 達也	音楽				
6	非常勤講師	北島 光基	表現				
7	スクールサポートスタッフ	河原 孝子					
8	学校医	河野 明彦	内科				
9	学校医	大蝶 修司	耳鼻科				
10	学校医	水野 和也	眼科				
11	学校歯科師	齋藤 彰	歯科				
12	健康管理医	河野 千恵	内科				
13	学校薬剤師	佐々木 雄史	薬剤師				

様式第2号 - 2

職員の年齢調

(令和5年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	1 人	
30歳以上40歳未満	9 人	
40歳以上50歳未満	6 人	
50歳以上56歳未満	3 人	
56歳以上61歳未満	0 人	
61歳以上	0 人	再任用
計	19 人	平均年齢 40.3歳

健康 管 理

1 令和4年度受診状況

区 分	内 容				
受 診 状 況	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">受診者数</td> <td style="text-align: right;">19 人</td> </tr> <tr> <td>職員数</td> <td style="text-align: right;">19 人</td> </tr> </table>	受診者数	19 人	職員数	19 人
受診者数	19 人				
職員数	19 人				
受 診 率	100%				
県平均受診率	100%				

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 令和4年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分		人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。	人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療 人
B 2		要経過観察 人
C 1	勤務をほぼ平常に行っており、症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療 人
C 2		要経過観察 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療 2 (2) 人
D 2		要経過観察 8 (8) 人
D 3		医 療 不 要 9 (9) 人
区 分 者 計		19(19)人
未 区 分 者 数		人
合 計		19(19)人

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア	産休・育休	人
イ	新規採用	人
ウ	自己都合による未受診	人
エ	その他	人
	()	人